

関係人口と移住意向との関わり

— 「地域との関わりについてのアンケート」の2次分析 —

岡 本 裕 介

要 旨

この研究では、国土交通省の「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」のもとで2020年7月10日から2021年3月30日までの間に行なわれたウェブによる調査票調査「地域との関わりについてのアンケート」の公開データを2次分析し、関係人口などで、居住地以外の特定の地域を継続的に訪問している人が、どのような条件でその地域に移住意向をもつのかを検討した。データのもとになった調査で、特定の地域を継続的に訪問していると回答したのは37,939人であった。回答者1人につき3つまでの地域を報告できたので、対象地域はこれよりも多く、合計で72,974件あり、これを分析の対象とした。分析には二項ロジスティック回帰分析を用いた。従属変数には、現在訪問している地域に移住する意向の有無を問う設問への回答を指定し、独立変数には、この調査で得られた他の変数から17の変数を選んで投入した。分析の結果、訪問先に移住する意向をもつのはどんな人か、またその人と地域にどんな関係があるかがある程度わかった。一言で言えば、非常に活動的で、対象地域に対して相対的に関わりの方が大きい人ということになる。これは、再生を目指す地域が関係人口との間に期待する関係性そのものではないだろうか。とするなら、実際に移住するかどうかは別として、訪問地域に移住する意向を持つ人々が増えることは、それ自体として意味があるのではないかと考えられる。ただし、訪問先の地域区分で見ると、回答者の移住意向は、移住が最も望まれているであろう農山漁村部ではなく、市街地部、郊外部をはじめとするそれ以外の地域の方が強くなった。

1 はじめに

本稿では、国土交通省の「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」(国土交通省 2021)のもとで行なわれた「地域との関わりについてのアンケート」のデータを2次分析し、関係人口などで、居住地以外の特定の地域を継続的に訪問している人が、どのような条件でその地域に移住意向をもつのかを検討しようとするものである。

第2節で関係人口について概説し、移住意向との関わりについて述べる。第3節で「地域との関わりについてのアンケート」の概要と2次分析の方法について述べ、結果を示す。第4節で得られた知見について述べる。

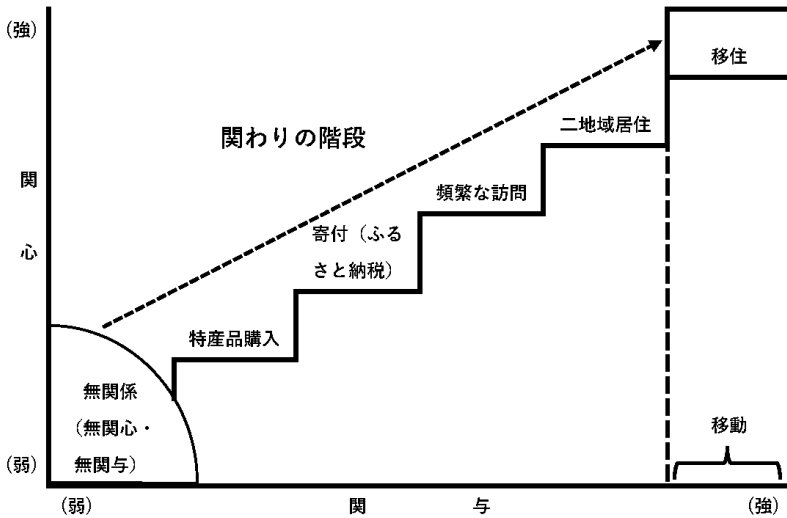
2 関係人口と関係する地域への移住意向との関わり

本節では、関係人口と移住との関わりを概説する。

地域経済の活性化に対する人びとの関わり方として、従来は定住人口(住民)と交流人口(旅行者・観光客)の2つが考えられていた。しかし、地域への関わり方はこの2つ以外にも様々なものがある。実際の関わり方の強さ、関わりたいという思いの強さが最も強いのが定住人口、最も弱いのが交流人口とすると、その間には様々な強さの関わりがあつて、そのような関わりをもつ人々を「関係人口」と呼んでいる(たとえば、総務省(2018)など)。

この「様々な関わり」の部分については、考え方も多様である。本稿のテーマは関係人口と移住との関係であるが、両者を関係づけるような考え方としては、小田切(2018)の「関わり方の階段」図(図2-1)に示されているようなものがある。

図で、右上の「移住」の対蹠である左下には、「観光」(交流人口)ではなく「無関係」が置かれているが、関わり(関与)と関わりへの思い(関心)の強さによって関係人口を表わしていることに変わりはない。ただし、その



小田切(2018)より、岡本が改変。

図 2-1 「関わりの階段」図

間は階段状に秩序づけられていて、かつ「移住」に向けて矢印が引かれ、関係人口が段階を追って定住人口になる可能性が示唆されている。「関係人口」という語には、将来的に定住人口を増やすという期待も含まれていた。

ただし、関係人口は移住に結びつくことにおいてのみ意味のあるものではない。定住人口が増えること、地域が存続することは良いことではあるが、それがすべてではない。田中輝美によれば、地域に質的な変容をもたらすのが関係人口である(田中 2021 : 265)。重要なことは地域を再生することであり、それには単に定住人口が増えることなく、地域再生の主体が増えることが必要である。それを促しうるのが関係人口で、田中はどのような条件で関係人口が地域再生主体として形成されるかを論じている(田中 2021 : 266)。

また、関係人口論の枠内では、関係人口と定住人口の関係と言えば、ま

ず将来の定住人口を確保するための前段階として考えられるかもしれないが、それ以外にも論点はある。たとえば、関係人口が増える要因と、定住人口が増える要因の共通性である。

ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会(2021:18-21)では、総務省の「住民基本台帳移動報告」と国土交通省の「地域との関わりについてのアンケート調査」のデータを対照し、訪問系関係人口の来訪が多い地域では三大都市圏(東京、名古屋、大阪)からの移住者が多いことを確認している。対比されたのは、「住民基本台帳人口移動報告」での三大都市圏からの転入超過回数と、「地域との関わりについてのアンケート調査」での地域を訪問している関係人口の標本数(人口1万人当たり)である。この相関は「外部の人を受け入れる環境を整えていること」(ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会 2021:18)の影響と推測されている。転入超過回数も人口1万人あたりの訪問系関係人口も多い市町村(北海道土幌町、山形県北杜市、島根県海士町など)は、地域の特性を活かした独自のプロジェクトを行っているところが多く含まれているからである。

上の対比では「地域との関わりについてのアンケート調査」のデータを使っているが、このデータを使えば、関係人口や、それに準じる関係を地域との間にもつ人について、それがどんな人であるかがわかる。これは、関係人口のうちどんな人にアプローチすれば移住者を確保できるかがわかるということかもしれないが、それ以前に、関係人口のうち移住意向をもつ人は、そもそもどんな人であるのかを知ることでもある。

3 「地域との関わりについてのアンケート」データを使った二項ロジスティック回帰分析

本節では、「地域との関わりについてのアンケート」の概要と2次分析の方法について述べ、結果を示す。

(1) 「地域との関わりについてのアンケート」の概要

国土交通省は、2019年と2020年の2度にわたって、関係人口に関する大規模な調査を行なっている。2019年調査は「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」(国土交通省 2020)のもとで、2020年調査は「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」(国土交通省 2021)のもとで行なわれた。調査の個票データはいずれも公開されている。本稿ではこのうち後者のデータを利用する。2020年調査に関わった懇談会は、2020年7月10日から2021年3月30日までの間に開かれ、調査自体はウェブによる調査票調査で「地域との関わりについてのアンケート」と題され、2020年9月29日から10月6日までの期間に実施された。調査の対象は18歳以上で、三大都市圏(首都圏、名古屋圏、大阪圏)の都市部居住者と、その他の地域の居住者の2種⁽¹⁾にわけてサンプルを取っている。調査は1次調査と2次調査に分けられ、1次調査でまず、回答者が居住地以外の地域と関係人口的な関わりをもっているかが問われ、関わりをもっている回答者のみが2次調査に進んだ。2次調査自体も2種類あり、特定の地域を訪問する場合を「2次調査(訪問系)」、インターネットのみを介して、実際に訪問せずに関わる場合を「2次調査(非訪問系)」と呼んで、別個に行なっている。本稿では「2次調査(訪問系)」のデータを使用している。また、「2次調査(訪問系)」の回答者の1次調査での回答も参照している。

1次調査の目標サンプル数は、三大都市圏75000、その他地域75000で、合計150000サンプル、二次調査はそれぞれ20000ずつで合計40000サンプルであった。調査によって得られた有効なデータは、公開されているデータから算出すると、1次調査が148831サンプル(目標の99.2%)、2次調査が37939サンプル(目標の94.8%)である。2次調査のうち、訪問系が34255サンプル、非訪問系が3684サンプルで、両者の重複はない。

このように、サンプリングの方法は従来のランダムサンプリングとは全く異なっている。データには居住地と関係する地域の市町村コードが含まれていて、国勢調査データをもとに補正ができるようになっている(母集

団拡大推計)。本稿の分析では、このような補正をしていないので、従来よりも偏りが含まれる可能性がある。

関係する地域について、回答者は1人につき3つまで報告できる(関係人口は1人で複数の地域に関わることができる。地域から見れば人材をシェアすることができ、ゼロサムにならないという点が定住人口と大きく違う)。そのため、この調査ではケースの数え方が2種類ある。回答者を数える場合を「人数ベース」、関係先地域数を数える場合を「地域数ベース」と呼ぶ。地域数ベースでサンプルを数えると「2次調査(訪問系)」は72974件、「2次調査(非訪問系)」は4111件となる。対象となる地域によって移住意向は変わってくるので、本稿ではもっぱら地域数ベースで分析を行なっている。

以下、SCで始まる質問番号は一次調査、Qで始まるものは二次調査で使用された質問に付されたものである

データを扱う際に注意しなければならない点として、「2次調査(訪問系)」に含まれているデータの一部には、関係人口として扱われないものがあるということがある。回答者は訪問先と多様な関わり方をしている。ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会(2021)はこれを整理して、一部を「地縁・血縁先の訪問を主な目的として地域を訪れている人」、「特定の生活行動や用務を行なっている人」に割り当てているが、彼らはこれを「関係人口」に含めていない(ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会 2021:5)。しかし、本稿ではこれを区別せずにすべて分析の対象とした。その理由は3つある。まず、この分類は絶対的なものではないということである。回答者は1か所の訪問先と多様な関わり方をしていて、調査では最大で8通り尋ねている⁽²⁾。上の2つのカテゴリーのいくつかに分類されていても、多かれ少なかれ関係人口としての関わり方もしていることがわかる。2つ目の理由は、上記2カテゴリーであっても、訪問先が移住と関わってくる可能性があるということである。3つ目は、特に「地縁・血縁先の訪問を主な目的として地域を訪れている人」に関して、関係人口に含めるべきであるとする考え方があるということである。そのような

考え方を示しているのは作野広和で、作野は徳野・柏尾(2014)の「修正拔大家族」論を引き、近隣地域に住む他出子は、実際に地域と関係が深く、地域維持に貢献しているので「広義の関係人口として認識すべき」と論じている(作野 2019: 18)。

(2) 二項ロジスティック回帰分析

訪問先地域の移住先としての評価(Q2-22「訪問先の地域は、移住先としてどのように感じられますか」)を従属変数として、二項ロジスティック回帰分析⁽³⁾を行った。Q2-22は「1. 移住したい地域である」、「2. どちらかといえば移住したい地域である」、「3. どちらかといえば移住したくない地域である」、「4. 移住したくない地域である」の四者択一の質問なので、本来であれば順序ロジスティック回帰分析を行うところである。しかし、手持ちの環境⁽⁴⁾では、平行性の仮定のもとでしか順序ロジスティック回帰分析を行なえなかった。今回のデータでは、平行線の検定により平行性が仮定できないという結論になって、他の方法を探らなければならなくなった。本稿では、従属変数 Q2-22 を 2 値に再コード化して二項ロジスティック回帰分析を行うこととした。情報が削減されることになるのでベストな方法とは言えないかもしれないが、わかったこともあるので以下のとおり報告する。

変数 Q2-22 のもともとの度数分布を表3-1に示す。累積%からわかる通り、1 と 2 の合計ですでに 50% 以上がカウントされている。つまり、データとしてあがってきた訪問事例の半数以上が移住意向の対象になっているということである。実際に移住することが念頭にあるとは限らないのかもしれないが、かなり大きな比率であるという印象を受ける。

二項ロジスティック回帰分析への投入に際し、選択肢 1 と 2 を合併して「(どちらかといえば)移住したい地域である」、選択肢 3 と 4 を合併して「(どちらかといえば)移住したくない地域である」とし、後者を参照カテゴリーとした。

表 3-1 変数 Q2-22(訪問対象地域への移住意向)の度数分布
 Q2-22「訪問先の地域は、移住先としてどのように感じられますか」の回答。

値	n	%	累積%
1. 移住したい地域である	14387	19.7	19.7
2. どちらかといえば移住したい地域である	23361	32.0	51.7
3. どちらかといえば移住したくない地域である	18847	25.8	77.5
4. 移住したくない地域である	16379	22.4	100
欠損値	0	0.0	
合計	72974	100	

表 3-2 変数 Q2-22 に基づく移住意向得点の代表値

Q2-22「訪問先の地域は、移住先としてどのように感じられますか」について、回答「1. 移住したい地域である」を4点、「2. どちらかといえば移住したい地域である」を3点、「3. どちらかといえば移住したくない地域である」を2点、「4. 移住したくない地域である」を1点として計算。

算術平均	2.49
標準偏差	1.046
最小値	1.0
最大値	4.0

またこれとは別に選択肢1を4点、2を3点、3を2点、4を1点として、範囲1～4、中位数2.5の移住意向得点を算出して、適宜参照した。得点が大きいほど、現在の訪問対象地域への移住意向が強くなる。移住意向得点の代表値を表3-2に示す。

独立変数にはこの調査で使われた変数を可能な限り投入することとしたが、投入を見送った変数もある。年齢は1歳刻みで尋ねているが、階層区分のみを投入した。居住地、訪問先の地理情報は、市町村、都道府県、地域区分と、さまざまな精細度の変数があるが、最も粗い「地域区分」のみとした。居住地の地域活動に関する設問(SC1-17, SC1-18)は、活動内容ご

とに参加／不参加を繰り返し尋ねていて情報が重複するので、全体としての参加の程度を問う SC1-17のみ投入した。分岐型のサブクエスションの多くは、欠損値(非該当)が多くなるので使用しなかった(SC1-5, Q2-18, Q2-19, Q2-23, Q2-24)。SC1-6(年収)のように無回答が多い(8197ケース)設問もあって、これも使用しなかった。SC1-10(関わりのある地域はあったか)は、一次調査のデータとしてのみ意味がある変数なのではずしている。二次調査のデータとしては使われていない変数(SC1-12~SC1-16)もある。Q2-12_1~Q2-15_2-33は、訪問先での過ごし方について、重要性の順序等をふまえて複数回答させるもので、ここでは詳細は不要と判断し、代表して Q2-12_1(最も力を入れた過ごし方)のみを投入した。これに加え、SC1-11(関わりのある地域の場所や関わり方)、Q2-4(地域訪問のきっかけ)、Q2-11(訪問地域の滞在場所)、Q2-16(訪問地域との関わり方)も先の Q2-12_1と重複が多いので使用しなかった。SC1-3(居住地の世帯構成)、SC1-7(趣味)、Q2-6(同行者)については、多重共線性の影響と思われる解釈の難しい出力が得られるので、投入を見送った。Q2-20(Covid-19 感染拡大収束後の地域との関係に対する希望)は、特に選択肢 6(移住を考えたい)が従属変数と同内容で、「完全な判別」が生じる恐れがあるために使用しなかった。

また、独立変数間の交互効果は検討しなかった。

(3) 分析の結果

表3-3-1は定数項の、表3-3-2~表3-3-18は独立変数ごとのパラメーター推定値(偏回帰係数 B 、標準誤差 SE 、Wald 値、有意確率 p)である。独立変数はすべて強制投入法により同時に投入したが、本稿では独立変数ごとに表を分けて表示している。表見出しの下は質問文で、択一回答の場合は「SA」、複数回答可のものは「MA」を表記している。SAの質問では、質問文の下に変数ごとのWald検定の結果を記載している。表内では、Wald検定の結果のうち自由度を省略した(すべて1である)。独立変数はすべて名義尺度として扱っている。本来であればオッズ比(B の逆対数)も表

記したいところであるが、紙幅の都合で省略した。参考まで、独立変数の水準ごとの度数(n)と、同じく独立変数の水準ごとの移住意向得点の算術平均値(mean)と標準偏差(SD)を併記している。

独立変数の数が多いため、独立変数間の関連は確認していない。ただし、各表のB(偏回帰係数)とmean(移住意向得点の算術平均)を対照すると、少なくともWald検定で有意($p < 0.05$)な水準に限って言えば、多重共線性の問題などで解釈が著しく難しくなっている関連性は見られない。

モデル係数のオムニバス検定の結果は、 $\chi^2 = 12647.712$, $df = 146$, $p < 0.001$ となった。 -2 対数尤度は88428.555、疑似 R^2 はCoxとSnellが0.159、Nagelkerkeが0.212である。

表3-3-2～表3-3-18に示す独立変数の参照カテゴリーは、複数回答可の設問(MA)については、その選択肢が選択されていない水準(0か1かのダミー変数の場合は0)とした。表には選択されている水準(0か1かのダミー変数の場合は1)のみ表記しているため、参照カテゴリーは逐一表していない。択一の設問(SA)については、特に順序尺度またはそれに近い変数の場合、順序が最下位または最上位と見なしうる水準を1つ選んで参照カテゴリーとした。順序尺度変数でもそれに近い変数でもない場合は、適宜1つの水準を参照カテゴリーとして選んだ。択一の設問については、表内にどれが参照カテゴリーであるかを明記している。

表3-3-2～表3-3-18の偏回帰係数(B)は、値が正の場合はより移住したくなる条件、負の場合はより移住しなくなる条件になっていると見なせる。Wald検定で有意($p < 0.05$)になっているものを中心にコメントしておく。ただし、本文中では煩瑣になるので、偏回帰係数、Wald値、自由度、有意水準は示さない。

訪問地域への移住意向は、女性よりも男性の方が高く(表3-3-2)、高齢者よりは若い人の方が高い(表3-3-3)。職業(表3-3-4)では、会社勤務、派遣社員・契約社員、学生が、無職(参照カテゴリー)と比較して移住意向が高くなる。必ずしも居住地域に根差していない職業が高くなっているというこ

表 3-3-1 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(定数項)

Bは偏回帰係数, SEは標準誤差, WaldはWald値,
pは有意確率。これ以降の表も同様。

区 分	B	SE	Wald	p
定数項	-2.326	0.138	283.664	<0.001

表 3-3-2 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(性別)

nはサンプル数, meanとSDは移住意向得点の算術平均と標準偏差。これ以降の表も同様。

区 分	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 男性	0.088	0.020	19.041	<0.001	37897	2.54	1.046
2. 女性	(参照カテゴリー)				35077	2.44	1.043

表 3-3-3 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(年齢階層区分)

Wald検定: Wald=266.059, df=3, p<0.001。

区 分	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 18~34歳	0.507	0.034	228.810	<0.001	22558	2.66	1.036
2. 35~49歳	0.328	0.031	110.705	<0.001	21123	2.52	1.049
3. 50~64歳	0.190	0.030	39.491	<0.001	17891	2.37	1.041
4. 65歳~	(参照カテゴリー)				72974	2.49	1.009

とかもしれない。「関係人口」という用語の認知度(表3-3-5)については、全く知らない人よりも少しでも知っている人の方が移住意向が強くなる。地方に住んだ経験・理由(表3-3-6)については、仕事の都合(選択肢5)、地方暮らしや特定の地域に興味を惹かれて住んでいた場合(選択肢6)に移住意向が強くなり、現在地方に住んでいる場合(選択肢1)や住んだことがない場合(選択肢10)に移住しない意向が強くなる。表3-3-7(SC1-17)は(訪問等で関わりのある地域ではなく)居住地の地域活動への参加に関するものである。少しでも地域活動に参加したことがある人は、参加したことがない人と比べて有意に移住意向が強かった。

表 3-3-4 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(SC1-4)

質問文：あなたの職業を教えてください。(SA)

Wald検定：Wald=39.674, $df=12$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 会社勤務	0.109	0.036	9.157	0.002	27743	2.58	1.049
2. 会社経営(経営者・役員)	-0.074	0.059	1.575	0.210	1908	2.50	1.043
3. 公務員・教職員	0.022	0.046	0.237	0.627	4786	2.57	1.050
4. 団体職員	0.032	0.074	0.187	0.665	1083	2.53	1.053
5. 派遣社員・契約社員	0.179	0.053	11.531	<0.001	2652	2.46	1.041
6. 自営業	0.021	0.047	0.196	0.658	3676	2.44	1.051
7. 農林漁業	-0.096	0.159	0.359	0.549	201	2.46	1.010
8. 専門職(弁護士・税理士・医療 関連)	0.031	0.053	0.343	0.558	2701	2.51	1.022
9. パート・アルバイト	0.071	0.040	3.120	0.077	8378	2.41	1.031
10. 専業主婦・主夫	0.048	0.039	1.492	0.222	9318	2.37	1.034
11. 学生	0.205	0.056	13.307	<0.001	2891	2.71	0.987
12. 無職	(参照カテゴリー)				641	2.28	1.031
13. その他の職業	0.042	0.091	0.219	0.640	6996	2.42	1.038

表 3-3-5 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(SC1-8)

質問文：「関係人口」という言葉をご存じですか。(SA)

Wald検定：Wald=88.55, $df=3$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 定義や考え方など、おおむね知 っている	0.247	0.038	41.356	<0.001	4967	2.87	1.014
2. 言葉は聞いたことがあるが、詳 しくはわからない	0.217	0.026	68.181	<0.001	10630	2.68	0.981
3. 聞いたことはないが、何となく イメージできる	0.067	0.020	11.752	<0.001	19718	2.50	1.018
4. 特に聞いたこともないし、よく わからない	(参照カテゴリー)				37659	2.38	1.062

関係人口と移住意向との関わり

表 3-3-6 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(SC1-9)

質問文：地方に住んだ経験がありますか。また、地方に住んだ理由を教えてください。
(MA)

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
1. 【ある】 現在、居住地が地方である	-0.066	0.026	6.424	0.011	24501	2.48	1.057
2. 【ある】 出生地(生まれたところ)が、地方であった	-0.034	0.019	3.235	0.072	32826	2.51	1.042
3. 【ある】 過去に、親族や家庭の事情により、地方に住んでいた	-0.044	0.025	3.093	0.079	10090	2.53	1.039
4. 【ある】 過去に、自分の進学・通学の都合などにより、地方に住んでいた	-0.020	0.026	0.593	0.441	9413	2.57	1.036
5. 【ある】 過去に、自分の仕事の都合などにより、地方に住んでいた	0.053	0.024	4.984	0.026	12823	2.53	1.048
6. 【ある】 過去に、地方暮らしやその地域に興味を惹かれて、地方に住んでいた	0.140	0.064	4.740	0.029	1593	2.90	0.970
7. 【ある】 過去に、知人などに勧められて(又は誘われて)、地方に住んでいた	-0.076	0.091	0.692	0.406	789	2.94	0.923
8. 【ある】 過去に、趣味や好きなことなどを満喫できる環境だったので、地方に住んでいた	0.151	0.082	3.424	0.064	991	2.91	0.999
9. 【ある】 その他 上記以外の理由	0.111	0.093	1.432	0.231	567	2.43	1.052
10. 【ない】 地方には住んだことがない	-0.224	0.027	67.328	<0.001	13723	2.37	1.039

表 3-3-7 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(SC1-17)

質問文：新型コロナ感染拡大前(2月頃より前)において、居住地を中心とする地域で、何らかの「地域活動」に参加していましたか。(SA)

Wald 検定：Wald=31.039, $df=3$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 地域活動の主体(団体等の事務局など)として実施していた	0.183	0.040	20.555	<0.001	4336	2.86	1.033
2. 定期的または継続的な活動に参加していた	0.061	0.027	5.054	0.025	9740	2.64	1.021
3. 活動に参加する(した)ことがあった	0.085	0.021	17.048	<0.001	17577	2.54	1.009
4. 参加したことはない	(参照カテゴリー)				41321	2.39	1.053

表 3-3-8 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q1-2_2)

新型コロナ感染拡大前(2月頃より前)の居住地の今回の WEB アンケート調査の地域区分

Wald 検定：Wald=73.058, $df=18$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 北海道	-0.085	0.103	0.684	0.408	2042	2.49	1.062
2. 東北圏	0.004	0.096	0.001	0.969	4823	2.52	1.047
3. 北関東・甲信(首都圏都市部除く)	0.034	0.098	0.120	0.729	3957	2.48	1.055
4. 首都圏都市部	-0.036	0.094	0.152	0.697	23657	2.48	1.042
5. 南関東(首都圏都市部除く)	0.010	0.112	0.007	0.932	1115	2.44	1.050
6. 新潟県	0.044	0.115	0.150	0.699	1002	2.46	1.073
7. 北陸圏	0.232	0.107	4.657	0.031	1506	2.57	1.043
8. 長野県	0.008	0.112	0.006	0.940	1137	2.41	1.070
9. 中部圏都市部	0.010	0.099	0.011	0.915	4296	2.47	1.042
10. 中部圏(中部圏都市部除く)	-0.064	0.098	0.426	0.514	4095	2.43	1.046
11. 近畿圏都市部	-0.024	0.095	0.065	0.798	9780	2.49	1.037
12. 近畿 I (近畿圏都市部除く)	0.050	0.108	0.217	0.642	1424	2.45	1.044
13. 近畿 II (近畿圏都市部除く)	0.105	0.107	0.967	0.326	1567	2.49	1.035
14. 山陰	0.181	0.127	2.017	0.156	616	2.61	1.071
15. 山陽	0.180	0.099	3.295	0.069	3078	2.52	1.028
16. 四国圏	0.169	0.105	2.598	0.107	1815	2.58	1.053
17. 北九州	0.011	0.097	0.013	0.908	4353	2.50	1.055
18. 南九州	0.203	0.102	3.929	0.047	2129	2.60	1.048
19. 沖縄県	(参照カテゴリー)				582	2.53	1.068

関係人口と移住意向との関わり

表 3-3-9 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-3)

質問文：「関わりがあった地域」は次のどれにあてはまりますか。(SA)

Wald 検定：Wald=407.785, $df=6$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 市街地部(商業集積地, オフィス街等)	0.220	0.041	28.611	<0.001	18990	2.44	1.079
2. 市街地部(住宅地)	0.504	0.039	167.018	<0.001	28710	2.57	1.036
3. 市街地部(市街地内農林地等)	0.271	0.057	22.392	<0.001	2609	2.61	0.997
4. 郊外部(郊外住宅地)	0.193	0.041	22.255	<0.001	13505	2.44	1.027
5. 郊外部(周辺農林地等)	0.097	0.048	4.126	0.042	4780	2.42	1.028
6. 農山漁村部	(参照カテゴリー)				3628	2.41	1.018
7. その他	0.018	0.089	0.040	0.842	752	2.21	1.039

表 3-3-10 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-5)

質問文：地域と関わり始めてからの年数について教えてください。(SA)

Wald 検定：Wald=282.267, $df=10$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 1年未満	(参照カテゴリー)				5009	2.45	1.042
2. 1年～2年未満	-0.069	0.045	2.307	0.129	4925	2.46	1.035
3. 2年～3年未満	-0.056	0.045	1.515	0.218	3854	2.48	1.031
4. 3年～4年未満	0.007	0.048	0.023	0.880	4624	2.43	1.026
5. 4年～5年未満	-0.021	0.046	0.215	0.643	9847	2.44	1.035
6. 5年～10年未満	-0.020	0.040	0.245	0.621	6687	2.45	1.047
7. 10年～15年未満	0.002	0.043	0.001	0.970	5685	2.54	1.056
8. 15年～20年未満	0.143	0.044	10.356	0.001	4756	2.58	1.048
9. 20年～25年未満	0.232	0.046	24.887	<0.001	4000	2.57	1.051
10. 25年～30年未満	0.140	0.049	8.329	0.004	18638	2.52	1.048
11. 30年以上	0.336	0.039	74.289	<0.001	4949	2.46	1.063

表 3-3-11 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-7)

質問文：地域を訪問していた頻度を教えてください。(SA)

Wald 検定：Wald = 861.755, $df=8$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 月に10回以上	1.061	0.049	465.494	<0.001	7499	2.90	1.090
2. 月に数回	0.926	0.045	424.782	<0.001	8086	2.67	1.041
3. 月に1回程度	0.760	0.043	311.893	<0.001	8913	2.55	1.029
4. 盆・正月・GWなどの長期休暇ごと	0.533	0.042	160.749	<0.001	9052	2.63	1.016
5. 年に数回	0.460	0.038	145.379	<0.001	19545	2.40	1.013
6. 年に1回程度	0.163	0.041	15.562	<0.001	8824	2.25	0.987
7. 数年に1度(2～10年程度に1度)	(参照カテゴリー)				4211	2.17	0.984
8. 不定期, 決まっていない	0.388	0.045	75.375	<0.001	6392	2.29	1.038
9. その他	0.807	0.136	35.423	<0.001	452	2.74	1.145

表 3-3-12 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-8)

質問文：地域への一回の訪問で、どの程度の期間(時間)滞在することが多かったですか。

(SA)

Wald 検定：Wald = 710.837, $df=6$, $p<0.001$ 。

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 半日程度(日帰り)	(参照カテゴリー)				15588	2.40	1.066
2. 丸1日程度(日帰り)	0.167	0.026	42.410	<0.001	16010	2.45	1.041
3. 1泊2日程度	0.366	0.028	171.703	<0.001	17108	2.42	1.017
4. 2～4泊程度	0.636	0.030	444.309	<0.001	18239	2.57	1.029
5. 1, 2週間程度	0.956	0.045	447.336	<0.001	3758	2.77	1.034
6. 1ヶ月程度	0.981	0.080	150.597	<0.001	902	2.77	1.077
7. その他	0.576	0.080	51.335	<0.001	1369	2.86	1.135

表 3-3-13 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-9)

質問文：地域までの移動で、最もよく利用していた主な交通手段を教えてください。(MA)

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
1. 自家用車	0.073	0.023	10.098	0.001	36961	2.53	1.042
2. バイク	0.203	0.066	9.514	0.002	1408	2.92	0.985
3. 自転車	0.255	0.051	24.827	<0.001	2588	2.94	1.007
4. 一般路線バス	0.178	0.042	17.567	<0.001	3200	2.70	1.006
5. 都市間高速バス	0.099	0.035	7.794	0.005	4455	2.59	1.017
6. 新幹線	-0.017	0.025	0.463	0.496	14228	2.43	1.035
7. 新幹線以外の鉄道	-0.082	0.023	13.333	<0.001	16977	2.38	1.032
8. 旅客機(飛行機)	0.066	0.031	4.535	0.033	8393	2.50	1.056
9. 旅客船・フェリー	0.071	0.078	0.821	0.365	836	2.63	1.031
10. タクシー	0.046	0.081	0.318	0.573	826	2.58	1.065
11. レンタカー	0.005	0.057	0.009	0.924	1594	2.56	1.035
12. カーシェアリング	-0.064	0.146	0.195	0.659	264	2.72	1.012
13. その他	-0.129	0.073	3.085	0.079	1071	2.51	1.145

表 3-3-14 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-10)

質問文：地域までの移動にかかっていた片道の所要時間(トータル)を教えてください。(SA)

Wald 検定：Wald=405.487, *df*=8, *p*<0.001。

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
1. 0.5時間(30分)未満	(参照カテゴリー)				7207	2.97	1.045
2. 0.5時間(30分)～1.0時間未満	-0.553	0.039	200.894	<0.001	7685	2.52	1.041
3. 1.0～1.5時間未満	-0.711	0.039	334.379	<0.001	9734	2.40	1.022
4. 1.5～2.0時間未満	-0.674	0.041	270.715	<0.001	8329	2.41	1.014
5. 2.0～2.5時間未満	-0.701	0.043	267.582	<0.001	7462	2.44	1.024
6. 2.5～3.0時間未満	-0.651	0.044	222.780	<0.001	7505	2.43	1.024
7. 3.0～4.0時間未満	-0.678	0.043	244.356	<0.001	8618	2.44	1.035
8. 4.0～5.0時間未満	-0.691	0.047	215.179	<0.001	5704	2.43	1.037
9. 5.0時間以上	-0.745	0.043	302.430	<0.001	10730	2.44	1.054

表 3-3-15 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-12_1)

質問文：新型コロナ感染拡大直前(2月頃より前)に、地域において最も力を入れていた(又は最も時間を費やしていた)過ごし方や活動を1つ選んでください。(SA)

Wald 検定：Wald=595.419, $df=24$, $p<0.001$ 。

(1)

選 択 肢	B	SE	Wald	p	n	mean	SD
1. 地域の交流拠点などで創発されるプロジェクトやコミュニティへの主体的な参加	0.277	0.079	12.354	<0.001	932	2.77	0.978
2. 地域のまちおこし・むらおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営, 又は協力・支援等	0.336	0.075	19.934	<0.001	1058	2.82	0.984
3. 地域に新たな仕事(産業)を創出するなどの活動への参加	0.114	0.083	1.903	0.168	820	2.70	1.002
4. 地域でのボランティアや共助活動への参加	0.347	0.068	26.162	<0.001	1289	2.73	1.022
5. 農地, 水路, 森林等の地域資源の共同保全活動への参加	0.406	0.104	15.128	<0.001	549	2.89	0.940
6. まちなみ保全などの共同活動への参加	0.343	0.100	11.825	<0.001	593	2.81	0.967
7. 地元の企業・事業所での労働(地域における副業)	-0.284	0.065	19.278	<0.001	1347	2.40	1.063
8. 農林漁業への就業	0.190	0.126	2.291	0.130	346	2.82	1.009
9. 農林漁業者のサポート(援農等)	0.330	0.113	8.458	0.004	433	2.83	0.965
10. 商店街の空き店舗有効活用に関する活動への参加	0.277	0.094	8.753	0.003	652	2.81	1.020
11. 朝市・マルシェへの出店に関する活動への参加	0.304	0.095	10.293	0.001	613	2.80	0.984
12. 地域の人との交流・コミュニケーションを楽しむ, 人脈をつくる	0.283	0.046	37.531	<0.001	2954	2.69	1.023
13. 祭りや地域体験プログラム等への参加	0.366	0.063	33.455	<0.001	1465	2.75	1.003
14. 教養・学習の場への参加	0.025	0.055	0.215	0.643	1926	2.51	1.065
15. 地域ならではの飲食や買い物(地場産品の購入等)	0.237	0.037	40.690	<0.001	4868	2.56	1.005
16. 自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動	0.324	0.031	106.284	<0.001	8062	2.58	1.047
17. 市民農園・農業体験農園への参加	0.016	0.115	0.018	0.892	412	2.75	1.021
18. 自家消費農業等の取組	0.518	0.105	24.402	<0.001	522	2.86	0.984
19. 本業として普段行っている業務や仕事(テレワークなど)	-0.296	0.039	56.630	<0.001	4911	2.34	1.084

関係人口と移住意向との関わり

(2)

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
20. 訪問地域外の業務や仕事(テレワーク/副業など)	-0.160	0.070	5.248	0.022	1128	2.45	1.075
21. 自己の用務, 生活行動等(日常的な買物, 飲食, 通院, 生活サービス享受等)	0.241	0.032	56.236	<0.001	7272	2.59	1.057
22. 墓参, 家族・親族等の世話, 面会, 同窓会等	-0.107	0.026	17.138	<0.001	17323	2.37	1.014
23. ふるさと納税によって, 地域を継続的に応援(→削除)*	/				0		
24. クラウドファンディングによって, 地域を継続的に応援	/				0		
25. 地場産品等を購入することにより, 地域を定期的・継続的に応援	/				0		
26. 遠隔で地域のためになる仕事を請け負い	/				0		
27. SNS 等で地域の情報発信を行い応援(→ふるさと納税またはSNS等情報発信)*	-0.235	1.075	0.048	0.827	4	2.75	0.957
28. オンライン(zoom, Slack 等)を活用して, 地域と継続的に関わっている	/				0		
29. 地域から応援・支援を受ける等の交流を行っている	/				0		
30. 特に何もしないで過ごす	(参照カテゴリー)				13359	2.33	1.047
42. 地域において友人や知人との交流・コミュニケーションを楽しむ	-0.060	0.186	0.105	0.746	136	2.13	1.002

*ももとは選択肢23が「ふるさと納税によって, 地域を継続的に応援」, 選択肢27が「SNS 等で地域の情報発信を行い応援」で, *n* がそれぞれ, 1人と3人であった。しかし, 選択肢23の偏帰係数(B)が-21.944, 標準誤差(SE)が40192.97となり, 「完全な判別」が生じている可能性があることから, 選択肢23と27を合併して, 27「ふるさと納税またはSNS等情報発信」とした。

表3-3-16 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-17)

質問文: 新型コロナ感染拡大前(2月頃より前)に地域で行っていたような過ごし方や活動を新型コロナ感染拡大の収束後も続けたいですか。(SA)

Wald 検定: Wald = 2355.045, *df* = 3, *p* < 0.001。

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
1. 続けたい	1.582	0.049	1031.489	<0.001	48128	2.64	1.056
2. どちらかといえば続けたい	1.134	0.051	501.276	<0.001	17566	2.34	0.930
3. どちらかといえば続けたくない	0.154	0.061	6.456	0.011	4221	1.98	0.905
4. 続けたくない	(参照カテゴリー)				3059	1.69	0.975

表3-3-17 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-21)

質問文：どのような点が改善されれば、新型コロナウイルス感染拡大の収束後、地域との関係性を深められると思いますか。(MA)

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
1. 仕事やプライベートでの時間的な余裕の確保	0.136	0.020	47.760	<0.001	19972	2.55	1.035
2. 移動や滞在に伴う金銭的負担の軽減	0.068	0.022	9.752	0.002	13687	2.50	1.038
3. 家族や同行者の理解、価値観の合う仲間の存在	0.050	0.020	5.968	0.015	19835	2.50	1.026
4. 会社など所属組織の理解、テレワークや副業を認めるなどの制度化	0.141	0.036	15.056	<0.001	4424	2.73	1.032
5. 地域の人とつながりを持てる場の確保	0.232	0.026	76.697	<0.001	8925	2.70	1.018
6. 自分の能力・知識・経験などを活かせる機会の存在	0.253	0.028	82.483	<0.001	7850	2.75	1.026
7. 現勤務地での十分な収入の確保	0.228	0.027	72.638	<0.001	8356	2.70	1.059
8. 訪問地域での活動に伴う収入の確保	0.216	0.036	35.547	<0.001	4384	2.75	1.025
9. コロナ禍により悪化した地域との関係性が改善	0.021	0.027	0.588	0.443	8623	2.43	1.038
10. その他	-0.300	0.045	44.774	<0.001	3127	2.04	1.045

ここまでの1次調査に含まれる変数、以下は2次調査(訪問系)独自の変数である。居住地の地域区分(表3-3-8: Q1-2_2)は全国を19の地域に分けている。ここでは沖縄県を参照カテゴリーとしたが、北陸圏と南九州居住者の移住意向が沖縄県よりも強くなった。関わりのあった地域の区分(表3-3-9: Q2-3)は、市街地部、郊外部、農山漁村部のように地域の種類で分けている。参照カテゴリーは、農山漁村部(選択肢6)とした。その他(7)を除くすべての地域で、移住意向は農山漁村部よりも有意に強くなった。地域と関わり始めてからの年数(表3-3-10: Q2-5)は順序尺度で、最も短い「1年未満」を参照カテゴリーとしたが、特に15年以上の関わりがある場

表3-3-18 二項ロジスティック回帰分析によるパラメータ推定値(Q2-25)

質問文：新型コロナ感染拡大前(2月頃より前)、この地域で、訪問以外に他の関わり方をしていましたか。(MA)

選 択 肢	B	SE	Wald	<i>p</i>	<i>n</i>	mean	SD
1. ふるさと納税によって、特定の地域を継続的に応援していた	0.230	0.050	21.248	<0.001	5830	3.01	0.986
2. クラウドファンディングによって特定の地域を継続的に応援していた	0.480	0.060	63.413	<0.001	2831	3.03	0.829
3. 地場産品等を購入することにより、特定の地域を定期的・継続的に応援していた	0.027	0.048	0.315	0.575	8172	2.84	0.932
4. 都市部にいながら、特定の地域のためになる仕事を請け負っていた	0.044	0.061	0.535	0.465	2244	2.85	0.963
5. SNS等で、自分の住んでいる地域以外の特定の地域の情報発信を行っていた	0.058	0.058	1.026	0.311	2464	2.90	0.962
6. オンライン(zoom, Slack等)を活用して、特定地域と定期的又は継続的に関わっていた	-0.266	0.062	18.391	<0.001	1897	2.73	1.015
7. 訪問以外に関わりはない	-0.552	0.049	125.616	<0.001	52616	2.35	1.039
8. その他	-0.113	0.118	0.923	0.337	473	2.67	1.143

合に移住意向が有意に強くなった。訪問頻度(表3-3-11；Q2-7)は最も頻度の少ない選択肢7(数年に1度)を参照カテゴリーとしたが、選択肢8(不定期)、選択肢9(その他)も含め、他のすべての選択肢が参照カテゴリーと比べて移住意向が強くなった。滞在期間(表3-3-12；Q2-8)は、最も時間の短い選択肢1(半日程度)を参照カテゴリーとしたが、選択肢7(その他)も含め、他のすべての選択肢が参照カテゴリーと比べて移住意向が強くなった。交通手段(表3-3-13；Q2-9)は、自家用車、バイク、自転車、一般路線バス、都市間高速バス、旅客機(飛行機)で移住意向が強くなり、新幹線以外の鉄道で移住しない意向が強くなった。地域までの所要時間(表3-3-14；Q2-10)

は、最も短い選択肢1(0.5時間未満)を参照カテゴリーとしたところ、他のすべての選択肢で移住しない意向が強くなった。

表3-3-15の独立変数は、訪問地域で最も力を入れていた(または最も時間を費やしていた)過ごし方や活動を問う Q2-12_1である。選択肢1, 2, 4, 5, 6, 9, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 18, 21では移住意向が、選択肢7, 19, 20, 22では移住しない意向が、それぞれ有意に強くなっている。後者が主として労働に関わっているのに対し、前者は主として地域や個人の活動に関わっているのが特徴である。また、かなり多くの選択肢がいずれかに上がっていて、活動の内容が何であるかによって、移住意向か移住しない意向かのいずれかに結びつきやすいという結果になった。

表3-3-16の独立変数は地域で行っていたような過ごし方や活動を Covid-19 感染拡大収束後も続けたいかどうかについて問うもの(Q2-17)で、続けたいという願望が少しでもあれば、全くないよりも移住意向が強くなるという結果になった。

表3-3-17の独立変数(Q2-21)は、Covid-19 感染収束後に地域との関係性を深めるために改善すべき点を問うもので、積極的なポイントを上げる選択肢のすべてで移住する意向が強くなり、9(Covid-19 感染拡大により悪化した地域との関係性が改善)のような具体的なポイントをあげない選択肢では移住意向がはっきりしなかった(*n.s.*)。また10(その他)のみ移住しない意向が有意に強いという結果になったが、これが具体的にどのような意見であるかは不明である。⁽⁵⁾最後に表3-3-18の独立変数(Q2-25)は、訪問地域に対し、訪問以外の関わり方をしていたか(非訪問型の関係人口であったか)を問うもので、選択肢1(ふるさと納税)、選択肢2(クラウドファンディング)で移住意向が強くなり、選択肢6のオンライン(zoom, Slack等)での関わり、選択肢7の訪問のみは、逆に移住しない意向を強めるという結果になった。

4 得られた知見と課題

最後に、本稿で得られた知見について論じる。

本稿では、国土交通省が行なった「地域との関わりについてのアンケート調査」のデータを2次分析した。関係人口としての訪問先(地縁・血縁先、生活行動・用務での訪問も含む)への移住意向がどのような条件に影響を受けるかを、二項ロジスティック回帰分析で確認することを試みた。

前節の結果から、訪問先への移住意向をもつのはどんな人か、回答者と地域にどんな関係があるかがある程度わかった。一言で言えば、非常に活動的で、対象地域に対して相対的に関わりの方が大きい人ということになる。移住意向をもつ人は、相対的に若く、移動に対して融通が利きやすい職業に就き、「関係人口」という用語を知っていて、地方暮らしに興味を持ち、現在の居住地でも地域活動に参加している。また、現在の訪問先に長く関わり、頻繁に訪れ、1回の訪問で長く滞在する。訪問先では労働よりも地域や個人の活動に関わり、Covid-19感染拡大収束後も関係を保ちたいと考え、関係を改善するための具体的な意見を持ち、ふるさと納税やクラウドファンディングなど、支出を伴う非訪問型の関係をもっている。つまり全体として、現在の訪問地域に移住意向をもつ人たちは、地域が関係人口に期待するような積極的な関わりをもっているということがわかる。とするなら、実際に移住するかどうかは別として、訪問地域に移住する意向を持つ人々が増えることは、それ自体として意味があるのではないだろうか。

他方で、訪問先の地域区分で見ると、農山漁村部ではなく、市街地部、郊外部をはじめとするそれ以外の地域に対する移住意向が強くなっている。積極的な関わりをもつ関係人口を最も期待するのが、人口減少が早くから起きている農山漁村部であるとする、これは残念な結果であると言えるかもしれない。

いずれにしても「地域との関わりについてのアンケート」のデータから、重回帰分析をとおして多変量の関係を示すモデルを作れることが分かった。本稿では、紙幅の都合で回答者の移住意向にのみ注目したが、これ以外にも関係人口を分析するために重要な変数がある。たとえば主体的活動がそうである。第2節でふれたように、田中(2021)は、関係人口の中でも、地域に影響を与えるような人や、地域再生の主体になるような人が重要と見なしている。「地域との関わりについてのアンケート」のデータでは、訪問先での過ごし方を細かく順序づけて回答させる Q2-12_1～Q2-15_2のうち、選択肢1が「地域の交流拠点などで創発されるプロジェクトやコミュニティへの主体的な参加」で、回答者は1つの訪問地域について、そこでの活動に主体的に参加していたかどうかを最大で8回尋ねられることにな⁽⁶⁾る。1度でもこの選択肢を選んだケースをカウントすると、72974件中6173件(8.46%)になる。主体的に地域と関わったことがある人が、地域との間にどのような関係をもっているかは、関係人口を考えるうえで重要であると思われる。

注

- (1) 2019年調査では、三大都市圏居住者のみを対象としている。
- (2) 1つは「新型コロナウイルス感染拡大直前(2月頃より前)に、地域において最も力を入れていた(又は最も時間を費やしていた)過ごし方や活動を1つ選んでください」という択一式の質問(Q2-12_1)。同様に「2番目に」力を入れていた過ごし方や活動(Q2-13_1)、「関わり始めた当初に最も」(Q2-14_1)、「関わり始めた当初に2番目に」(Q2-15_1)力を入れていた過ごし方や活動を択一式で尋ね、さらにこの4つそれぞれに「付随する過ごし方や活動があれば、選んでください」という形で複数回答可の質問を設けている(Q2-12_2, Q2-13_2, Q2-14_2, Q2-15_2)。
- (3) 分析にはIBM SPSS Statistics, バージョン29.0.0.0(241)を使用した。
- (4) 注3参照。
- (5) 選択肢「その他」に付随するものを含め、自由回答はすべて公開されていない。
- (6) 注3参照。

文 献

- 国土交通省, 2020, 「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」, (2023年5月1日取得, https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000099.html).
- 国土交通省, 2021, 「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」, (2023年5月1日取得, https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000110.html).
- 小田切徳美, 2018, 「関係人口という未来 — 背景・意義・政策」, 『月刊ガバナンス』 202 : 14-17, ぎょうせい.
- ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会, 2021, 『最終とりまとめ — 関係人口の拡大・深化と地域づくり』, (2023年5月1日取得, <https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/content/001396629.pdf>).
- 作野広和, 2019, 「人口減少社会における関係人口の意義と可能性」『経済地理学年報』 65 : 10-28.
- 総務省, 2018, 「関係人口とは」, 『「関係人口」ポータルサイト』, (2023年5月1日取得, <https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>).
- 田中輝美, 2021, 『関係人口の社会学』大阪大学出版会.
- 徳野貞雄・柏尾珠紀, 2014, 『シリーズ地域の再生 11 T型集落点検とライフヒストリーでみえる家族・集落・女性の底力 — 限界集落論を超えて』農山漁村文化協会.

Conditions Under Which People Who Have Ongoing Involvement with a Region Intend to Migrate There: A Secondary Analysis of the “Questionnaire on the Relationship with the Local Community”

OKAMOTO, Yusuke

Abstract

In this study, a secondary analysis of the public data from the “Questionnaire on the Relationship with the Local Community” was conducted based on a web-based questionnaire survey conducted between July 10, 2020 and March 30, 2021 under the MLIT’s “Council on Lifestyle Diversification and the Relevant Population” and the conditions under which people who continue to visit a specific region other than their place of residence, such as one with which they have involvement, would have the intention to migrate to that region. The survey data indicate that 37,939 people regularly visited a particular region. Each respondent was able to report up to three regions, so the number of regions covered was larger. A total of 72,974 cases were included in the analysis. Binary logistic regression analysis was used. For the dependent variable, respondents were asked to answer whether they intend to migrate to the region they were currently visiting. For the independent variables, 17 variables were selected from among the other variables obtained in the questionnaire. The analysis results revealed to some extent the types of people who have the intention to migrate to the destinations they visited, and the relationships between these people and the regions. Put simply, this is someone who is extremely active and has a relatively large degree of involvement with the relevant region. This may be the exact relationship that a region aiming for revitalization expects from the relevant population. If so, then regardless of whether these people actually migrate, an increase

in the number of people who have the Intention of migrating to the regions they visited may be significant in itself. However, looking at the regional classification of the visited destinations, rather than in the agricultural, mountain, and fishing village areas, where migration would be most desirable, the intention to migrate to other areas, including urban and suburban areas, was stronger among the respondents.